

教育史学会第61回大会 開催のご案内

教育史学会第61回大会準備委員会

会員 各位

皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
このたび教育史学会第61回大会を下記の要領で開催することになりました。
ご参加を心よりお待ちしております。

1. 日 程 2017年10月7日(土)、8日(日)

2. 場 所 岡山大学

〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1 岡山大学 教育学部
(http://www.okayama-u.ac.jp/tp/access/access_4.html)

【交通案内】

○バス(岡山駅から)

- ・岡山駅運動公園口(西口)バスターミナル22番乗り場から岡電バス【47】系統「(岡山大学経由)岡山理科大学」行きに乗車、「岡大西門」下車(約10分)、徒歩5分。
- ・岡山駅後楽園口(東口)バスターミナル13番乗り場から岡電バス【17】【67】系統「妙善寺」行きに乗車、「岡大東門」下車(約30分)、徒歩2分。※この路線は市内を廻るため時間がかかります。
- ・岡山駅後楽園口(東口)バスターミナル7番乗り場から岡電バス【16】系統「津高台団地・半田山ハイツ」行き、【26】系統「岡山医療センター国立病院」行き、【36】系統「辛香口」行き、【86】系統「運転免許センター」行きのいずれかに乗車、「岡山大学筋」で下車(約10分)、徒歩15分。

○JR(岡山駅から)

- ・岡山駅乗り換え、津山線「法界院」駅下車、徒歩約10分。

3. タイムテーブル(予定)

	8:15	9:00	12:00	13:00	14:10	18:00
10月7日 (土)	受付	研究発表 (~12:00)	休憩	総会 (~14:00)	シンポジウム (~17:40)	懇親会 (~20:00)
	8:15	9:00	12:00	13:00	15:40	
10月8日 (日)	受付	研究発表 (~12:00)	休憩	研究発表 (~15:30)	コロキウム (~18:00)	

※理事会を10月6日(金)13時から開催する予定です。
理事会終了後、紀要編集委員会と書評委員会を開催する予定です。
会場は別途お知らせいたします。

4. 大会参加費・懇親会費について

	一般会員・臨時会員	学生会員	臨時学生会員
大会参加費	3,000円	無料	1,000円
懇親会費	4,000円	2,000円	2,000円

※学生会員の大会参加費は無料とします。学部・大学院に在籍する会員は、受付で学生証をご提示ください。会員でない学生が参加する場合は、臨時学生会員とし、特別料金とします。

5. 研究発表の申し込みについて

- (1) 同封の《研究発表・コロキウム企画申込書》に必要事項を記入のうえ、6月30日(金)までに、下記のいずれかの方法でお申し込みください。

①郵送の場合 〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1

岡山大学 教育学部 梶井一暁研究室気付
教育史学会第61回大会準備委員会 宛

※6月30日(金)の消印があるものを有効とします。

- ② E-mail の場合 大会準備委員会ウェブサイト (<https://edu.okayama-u.ac.jp/~kyouikushi61>) から書式をダウンロードし、必要事項を記入のうえ、kyouikushi61@okayama-u.ac.jp まで添付ファイルにてお送りください。送信時にメール・ソフトで「配信確認の要求」や「配信状態通知の返送」の設定を行っていただくと、より確実であると思います。

※E-mailの送信時刻が6月30日(金)を過ぎていないものを有効とします。

- (2) 発表資格

一般会員：第60回大会年度(2016年9月～2017年8月)の会費を納入済の者

新入会員：本年の5月末までに入会の手続きを終え、第60回大会年度の会費を納入した者

- (3) 発表内容：未発表の研究に限ります。

- (4) 発表時間：1人あたり30分(研究発表25分、質疑応答5分)とします。

- (5) 受付確認：申込書に記載されたアドレス宛にE-mailで受付確認の連絡をいたします。申込書の発送から1週間を過ぎても連絡がない場合は、大会準備委員会にお問い合わせください。

- (6) その他：申し込みをされた方には、『発表要綱集録』掲載用の原稿(A4判2枚の予定)を送っていただきます。執筆要項などにつきましては、後日、ご案内いたします。

6. コロキウムの申し込みについて

本大会におきましても、会員のみならず積極的な企画によるコロキウムを開催できるよう会場を準備いたします。企画をご予定の方は、同封の《研究発表・コロキウム企画申込書》に必要事項を記入のうえ、6月30日(金)までに、郵送、E-mailのいずれかの方法でお申し込みください(上記参照)。

申込書を受付次第、準備委員会からE-mailで受付確認の連絡をいたします。申込書の発送から1週間を過ぎても連絡がない場合は、大会準備委員会にお問い合わせください。

申し込みをされた方には、『発表要綱集録』掲載用の原稿を送っていただきます。執筆要項などにつきましては、後日、ご案内いたします。

7. シンポジウムについて

日 時：10月7日（土） 14時10分～17時40分（予定）

場 所：岡山大学教育学部 講義棟 5202 講義室

テーマ：近代学問における歴史研究の意義——政治史、経済史、科学史、そして教育史——

- 〔報告者〕 小田川大典（岡山大学、政治史）
山本千映（大阪大学、経済史）
金 凡性（広島工業大学、科学史）
〔指定討論者〕 柏木 敦（大阪市立大学、教育史）
〔司会者〕 渡邊隆信（神戸大学、教育史）
尾上雅信（岡山大学、教育史）

《趣 旨》

教育はいまそこで、動いている。政治も経済も科学も、いまそこで動き、私たちの目の前にある。教育学も政治学も経済学も科学も、動き、変わる現場をもつ学問である。そして私たちは、その変動する現場を対象とする諸学問のなかでも歴史研究という世界に住している。

教育学においてなぜ歴史研究は必要か。本シンポジウムでは、この問題関心を教育史研究者による教育史研究者のための議論のうちにとどめず、諸学問における歴史研究者との対話へと開き、教育史研究の意義を再考するための手がかりを得る機会としたい。

教育史研究の意義について、かつて上原専禄が「何故に教育史の研究が行われるのであろうか、ということを一一般化しますと、歴史研究は何のためになされるのかという問題になるようですが、その歴史研究は何のためになされるのかという問題の一部として、教育史研究は何のために行われるのかという問題があるのか、それともそのような関連ではなくて、歴史研究一般では何のために行われているかわからないけれども、教育史の方ではこのような意味において教育史の研究が行われなければならないと意識されているというのか。その辺が私には問題になってくるのであります」と語り、つぎのように指摘していた。

というのは、なるほど経済史の研究がある、政治史、文学史の研究があり教育史の研究がある。こういう工合に並べてみると、それは歴史研究一般の部分研究のように見えるけれども、果たして教育史研究というものは、経済史研究や政治史研究が、歴史研究一般の中での部分研究、あるいは領域研究を意味しているというのと同じような意味で教育史研究というものが行われるのだと、こゝにいえるのかどうか。むしろ教育史研究の意味は、経済史研究だとか、あるいは政治史研究の意味とは違うというように意識しなければならない面があるのではないか。

1957年、本学会第1回大会での「特別発表」（歴史の研究法について）においてである（『日本の教育史学』第1集、1958年、pp.263-264、復刻版）。

それから時はめぐり、60年、本大会は第61回大会となる。上原による教育史研究への期待ないし問題提起は、私たちにおいてどのように覚え直されるか。私たちはそれにどれだけ応え得ているか。

この問いに応えようと本シンポジウムでは、とくに諸学問における歴史研究との交差を通じ、その再考の手がかりを得たいと考えている。

教育学はいわゆる近代社会における必要の学として発達してきた学問のひとつである。同じく政治学、経済学、科学も、近代社会に必要な学として発展してきた学問である。ここではとくに近代学問の性格を帯びる領域として、政治学、経済学、科学、そして教育学を取り上げ、それぞれの学問において、歴史研究がどのような意義をもつことが期待されているか、三学問領域の研究者から報告いただき、それに対して教育史研究の立場からのコメントをいただくことを試みたい。

むろん、それぞれの学問はその成立背景をまったく同じにするものでない。単純に近代学問としてひとくくりできない側面ももつ。しかし、それぞれの学問は、純粋に原理の探究のうちに作業を閉じて役割を果たすだけでなく、冒頭で述べたような社会に存する現場に資することが、大なり小なり求められるところがある点で、同じ地点を有するといえる。社会的な有用性からみた評価とまったく無縁ではありえないところに、私たちは同じく立っているのだとも、換言できるだろう。そして、それぞれの学問のなかに位置を得て、私たちは歴史研究を進めてきている。

政治学における政治史、経済学における経済史、科学における科学史、そして教育学における教育史。これらの学問におけるそれぞれの歴史研究が、(1) その学問のなかでどのような位置にあり、どのようなアカデミックな意義を有するのか(学問的意義)、(2) また、その歴史研究はどのように社会に貢献し、社会的な有用性を保持するのか/しないのか(社会的意義)、(3) そして、私たちは大学等でそれを教える者であるのだが、その歴史研究は大学等で教えられる領域としてどのような性格をもつのか(教育的意義)などを主な論点として、意見を交わすことができると望むものである。それぞれの歴史研究の意義や役割を突きあわせてみると、どのような共通点や相違点がみえてくるのか。歴史研究の交差的関係から拓かれる研究テーマの発展の可能性はないだろうか。議論はおそらくオープンエンドに終わることとなるが、異なる学問領域における歴史研究の意義やそれを専門領域とする者の立場などを知り、情報交換できる場としたい。

8. 昼食について

10月7日(土)、8日(日)、両日とも学内生協食堂のピーチ・カフェテリア(西門近く)とマスカット・カフェテリア(中央図書館近く)を利用できます。会場の教育学部から徒歩3~5分です。7日(土)はJテラス・カフェ(Junko Fukutake Terrace、<http://jtcafe.jp/>)も利用できます。コンビニエンス・ストアはピーチ・カフェテリアが入る棟内に1店、学外にも2~3店あります。

9. 懇親会について

10月7日(土)のシンポジウム終了後、学内のピーチ・レストランで懇親会を開催する予定です。瀬戸内の料理や岡大ブランドのお酒も準備したいと思います。多数のご参加をお待ちしております。

10. 宿泊について

大会準備委員会では宿泊施設の紹介や斡旋は行いません。学会などの開催が多く見込まれる時期ですので、早めのお手配をおすすめいたします。

11. その他

- (1) 大学構内の駐車場は有料でご利用いただけます。入構後1時間まで無料、1時間以上2時間未満200円、以後1時間経過ごとに200円が加算されます。24時間ごとの最高限度額は1,000円です。
- (2) 今大会では託児サービスは行いません。
- (3) 大会プログラムは、8月下旬にお送りする予定です。
- (4) 不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

教育史学会 第61回大会準備委員会 事務局

〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1

岡山大学 教育学部 梶井一暁研究室気付

TEL & FAX 086-251-7708 E-mail kkajii@okayama-u.ac.jp

大会準備委員会ウェブサイト <https://edu.okayama-u.ac.jp/~kyouikushi61> (6月初旬運用開始予定)